

# 線形代数演習 II 小テスト

担当：若木 宏文

平成 30 年 1 月 25 日実施

学籍番号

氏名

問題 行列  $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix}$  の固有多項式を求め、ケイリー・ハミルトンの定理を利用して、 $A^{-1}$  を求めよ.

# 線形代数演習 II

担当：若木 宏文

平成 30 年 1 月 25 日配布

標準内積とノルム, 角度 ベクトル  $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}, \mathbf{w} = \begin{pmatrix} y_1 \\ \vdots \\ y_n \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^n$  に対して

$$\mathbf{v} \cdot \mathbf{w} = \sum_{i=1}^n x_i y_i$$

を,  $\mathbf{v}$  と  $\mathbf{w}$  の標準内積という. また  $\|\mathbf{v}\| = \sqrt{\mathbf{v} \cdot \mathbf{v}}$  を,  $\mathbf{v}$  の (標準的な) ノルムあるいは, 長さといい,

$$\cos \theta = \frac{\mathbf{v} \cdot \mathbf{w}}{\|\mathbf{v}\| \|\mathbf{w}\|}$$

となる  $\theta \in [0, \pi]$  を  $\mathbf{v}$  と  $\mathbf{w}$  のなす角という.  $\theta = \frac{\pi}{2}$  のとき,  $\mathbf{v}$  と  $\mathbf{w}$  は直交するという.

※ 以下の問題では, 内積, ノルム, ベクトルのなす角はすべて, 標準内積に基づくものとする.

60. 次で与えられる  $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$  は  $\mathbb{R}^3$  を張ることを示し,  $\langle \mathbf{v}_1 \rangle = \langle \mathbf{u}_1 \rangle$ ,  $\langle \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \rangle = \langle \mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2 \rangle$  を満たすような  $\mathbb{R}^3$  の正規直交基底  $\{\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3\}$  を求めよ. ただし,  $\langle \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_k \rangle$  は  $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_k$  によって張られる線形部分空間を表す.

$$(1) \{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3\} = \left\{ \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right\}$$

$$(2) \{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3\} = \left\{ \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} \right\}$$

61. グラムシュミットの直交化法を根拠に, 実数を成分とする任意の正則行列  $A$  は, 直交行列  $H$  と 上三角行列  $T$  を用いて  $A = HT$  と表されることを示せ.
62. 次のベクトル  $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2 \in \mathbb{R}^4$  によって張られる  $\mathbb{R}^4$  の線形部分空間を  $V$  とするとき,  $V$  の直交補空間の正規直交基底を一組求めよ.

$$(1) \mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} \qquad (2) \mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$$